

連載

Turbo

HAMLOGの

部屋

Turbo HAMLOG開発者
JG1MOU 浜田 博 Hiroshi Hamada

第16回

QSLカード印刷機能を利用した
POTA用のADIFファイル出力

Turbo HAMLOG/Win (以下, HAMLOGと略します) のQSL カード印刷機能には, ADIF ファイルを出力する機能がありますのでご紹介します。

QSL印刷定義ファイルを使った
ADIF出力

HAMLOG による QSLカード印刷では, いろいろな命令文を使って QSLカード印刷をカスタマイズすることができます。

そこでちょっと視点を変え, 出力先をプリンターではなくファイルとしてみたものです (つまり, 印刷しません) ※Column参照 (p.173)。

筆者は, POTAのアクティベーターとして公園で移動運用することがあり, 帰宅後は QSLカード印刷定義ファイルを使って ADIFファイルを出力し, POTA のサイトにアップロードしています。

正直なところ, 筆者は ADIF の仕様や POTA そのものについてはあまり詳しくはないので, 詳細は他の解説やネットを参考にさせていただきたいと思いますが, 問題なくアップロードできていますので参考にできれば幸いです (※1)。

Pota_Adif.qslファイル
を開く

HAMLOG に付属している QSLカード印刷定義ファイルの中に, Pota_Adif.qsl というファイルがあります。これが, 交信結果を ADIF ファイルに出力する定義ファイルのサンプルです。

この定義ファイルは, FT8 による POTA の移動運用を想定しており, コールサインに /P が付いています。フォンや電信の場合は, 12行目の /P を /1 などのようにエリア番号に書き換えてください。

図1は QSL印刷ウィンドウで, [定義ファイル(F)] ボタンをクリックすると, QSL印刷定義ファイルを選択して開くことができます。図1では Pota_Adif.qsl ファイルがセットされています。

図2は, Pota_Adif.qsl ファイルの内容で, 28行からなる定義ファイルです。

1行目から8行目まではコメントで, この定義ファ

※1 POTA (Parks on the Air) のサイトは, <https://pota.app/> です。

POTA のサイトにアップロードする ADIF の仕様については, 同サイトの ADIF Technical Reference Guide を参考にしました。

URL は, https://docs.pota.app/docs/activator_reference/ADIF_for_POTA_reference.html です。

また, ADIF ファイルの仕様の詳細については <https://adif.org/> を参照ください。

イルの概要を書いています。

以下、図2の9行目から行ごとに解説します。

9行目

#Adif="D:¥!nW.adi"

はじめに#Adif 命令を記述します。この命令があると印刷せずにADIFファイル出力モードとなり、印刷イメージや試し印刷は機能しません。

また、#Adif 命令がある場合は、印刷設定にかかわらず範囲指定したデータのすべてが出力されます。

図2では[JARL指定逆順]と[未発行局を印刷]が選択され、ノーQSLは除外する設定となっていますが、これらにかかわらず範囲指定したデータのすべてが入力順で出力されます。

●図2の例では、#Adif="D:¥!nW.adi"と記述されていますので、日付をファイル名にして出力します。!nWは、今日の日付に置き換わります。図2の例では、D:¥2025-08-24.adiのように日付がファ

図1 HAMLOGのQSLカード印刷ウィンドウ

イル名となってADIFファイルが出力されます。

- #Adif 命令だけを記述してフォルダ指定がなければ、HAMLOGがインストールされているフォルダにAdifOut.adiというファイル名で出力されます。
- #Adif="C:¥Hamlog¥Adif_Out.adi"のようにフルパスでファイル名を指定することもできます。

```
1 ; ----- POTA用 ADIF出力のQSL定義ファイル □ by JG1MOU -----↓
2 ; 印刷イメージは機能しない。試し印刷も機能しない。↓
3 ; #ADIF命令では、次のようにフォルダ指定が可能↓
4 ; #Adif="D:¥Adif_Out.adi"↓
5 ; #Adif ←フォルダ指定が無ければHamlogフォルダに出力↓
6 ; 出力後、QSL発行済みにしないでください。(最後の番号確認はキャンセル) ↓
7 ; ADIF出力したら、https://pota.app/ □にアップロード↓
8 ; -----↓
9 #Adif="D:¥!nW.adi" ; 日付をファイル名にして出力。例 D:¥2025-01-18.adi↓
10 #Mov $$$="JG1QRX" ; 【要修正】 自局コールサイン↓
11 #Mov $$$="JP-9999" ; 【要修正】 自局運用場所の公園番号↓
12 #Mov $$$="!$A/P" ; JG1QRX/P↓
13 #Mark="" ; QSL発行済みマークを書き込まない。↓
14 #Jst2Utc ; JSTはUTCに変換する。↓
15 ↓
16 #Mov $$$="<NODE:!Af>!MD"↓
17 ? Data7 "FT4"↓
18 #Mov $$$="<NODE:4>MFSK<SUBMODE:3>FT4"↓
19 ? Data7 "C4FM"↓
20 #Mov $$$="<NODE:12>DIGITAL VOICE<SUBMODE:4>C4FM"↓
21 ? Data7 "DV"↓
22 #Mov $$$="<NODE:12>DIGITAL VOICE<SUBMODE:5>DSTAR"↓
23 ↓
24 ; ? Data14 "!$$$B" ; Remarks2に自局運用場所の公園番号があったらADIF出力↓
25 ? Data13 "!$$$B" ; Remarks1に自局運用場所の公園番号があったらADIF出力↓
26 #Print 0,0,"<STATION_CALLSIGN:!Af>!$$$C<OPERATOR:!Af>!$$$A<CALL:!Af>!ep<QSO_DATE:!Af>!DY!DM!DD"↓
27 #Print 0,0,"<TIME_ON:!Af>!TH!TM<BAND:!Af>!Bt!$$$D<MY_SIG:4>POTA<MY_SIG_INFO:!Af>!$$$B<EOR>"↓
28 ? End↓
```

図2 HAMLOGに付属の定義ファイル Pota_Adif.qsl の内容。ADIFファイル出力を目的とした定義ファイル

10行目

#Mov \$\$A="JG1QRX"【要修正箇所】

#Mov はコピー命令です。\$\$A という変数にコールサインの文字列をコピーします。

#Mov \$\$A="JG1QRX"とあり得ないコールサインが書かれていますので、自局のコールサインに書き換えてください。

11行目

#Mov \$\$B="JP-9999"【要修正箇所】

\$\$B という変数に公園番号をコピーします。

サンプルでは仮に JP-9999 となっていますので、アクティベーターとして運用した公園番号に書き換えてください。

12行目

#Mov \$\$C="!\$\$A/P"

10 行目により変数 \$\$A には自局のコールサインがコピーされていますので、! を付けてその文字列を取り出し、/P を付けます。

したがって、\$\$C には JG1QRX/P のような文字列がコピーされます。

FT8 を想定していますので、フォーンや電信の場合、/P を /1 や /7 などのようにエリア番号に適宜修正してください。

13行目

#Mark=""

ADIF ファイルに出力した際、QSL 欄の 1 文字目に QSL カード発行済みマークを書き込まないようにする設定です。

14行目

#Jst2Utc

QSO データから読み込んだ交信時刻が JST で記録されている場合、UTC に変換します。日本時間よりも 9 時間遅れの年月日時分となります。

16行目

#Mov \$\$D="<MODE:!Af>!MD"

\$\$D という変数に <MODE:!Af>!MD という文字

列をコピーします。

!MD は、QSO データから読み込んだモード（電波型式）に置き換わります。!Af は、モードの文字列の長さの数値に置き換わります。

例えば、<MODE:3>FT8 といった感じです。

17行目

? Data7 "FT4"

? Data7 はモードを調べます。もし、モードが FT4 だったら、18 行目の命令を実行するという条件命令です。

18行目

#Mov \$\$D="<MODE:4>MFSK<SUBMODE:3>FT4"

17 行目の条件命令により、モードが FT4 だった場合、\$\$D という変数に <MODE:4>MFSK<SUBMODE:3>FT4 という文字列をコピーします。

変数 \$\$D には、すでに 16 行目でコピーされていますが、これに上書きしてコピーします。

19行目

? Data7 "C4FM"

もし、モードが C4FM だったら、20 行目の命令を実行します。

20行目

#Mov \$\$D="<MODE:12>DIGITALVOICE<SUBMODE:4>C4FM"

19 行目の条件命令により、モードが C4FM だった場合に \$\$D という変数に <MODE:12>DIGITAL VOICE<SUBMODE:4>C4FM という文字列をコピーします。

21行目

? Data7 "DV"

もし、モードが DV だったら、22 行目の命令を実行します。

22行目

#Mov \$\$D="<MODE:12>DIGITAL VOICE<SUBMODE:5>DSTAR"

21 行目の条件命令により、モードが DV だった場合に \$\$D という変数に <MODE:12>DIGITAL

VOICE<SUBMODE:5>DSTAR という文字列をコピーします。ADIFのルールでは、FT4・C4FM・DSTARなどはSUBMODEであって、FT4のMODEはMFSKであり、C4FM、DSTARなどのMODEはDIGITALVOICEとなるようです。

例えば、FMによる交信だった場合は<MODE:2>FMとなりますが、C4FMによる交信だった場合は<MODE:12>DIGITALVOICE<SUBMODE:4>C4FMとなります。

24行目

※行頭にセミコロンがあって無効です

自局の運用場所をいつも Remarks2 に書き込んでいる場合は、この行を有効にして 25 行目を無効にしてください。

24 行目を有効にした場合、11 行目で \$\$B にコピーした自局運用場所の公園番号が Remarks2 に存在したら、26 行目と 27 行目の命令が実行されます。

25行目

? Data13 "\$\$B"

11 行目で \$\$B にコピーした自局運用場所の公園番号が Remarks1 に存在したら、26 行目と 27 行目の命令が実行されます。

これにより、指定した公園番号が記載されている交信だけが ADIF ファイルに出力されます。

26行目

ADIFを1行分ファイルに出力します

#Print 命令は、QSL カードに文字を印刷する命令ですが、ここでは ADIF ファイルに書き出します。

<STATION_CALLSIGN:!Af>!\$C

!\$C には JG1QRX/P がコピーされています。

!Af は、JG1QRX/P の長さに置き換わります。したがって、<STATION_CALLSIGN:8>JG1QRX/P となります。

<OPERATOR:!Af>!\$A

!\$A には JG1QRX がコピーされています。したがって、<OPERATOR:6>JG1QRP となります。

<CALL:!Af>!cp

!cp は、相手局のコールサインです。JG1MOU/P などのように、HAMLOG に入力したコールサイン

で、<CALL:8>JG1MOU/P などのようになります。

<QSO_DATE:!Af>!DY!DM!DD

UTC の交信年月日です。!DY は 4 桁の西暦、!DM は月 (01~12)、!DD は、日 (01~31) です。したがって、例えば 2025 年 8 月 24 日であれば、<QSO_DATE:8>20250824 となります。

27行目

ADIFを1行分ファイルに出力します

<TIME_ON:!Af>!TH!TM

UTC の交信開始時刻です。例えば、22 時 05 分であれば、<TIME_ON:4>2205 となります。

なお、HAMLOG では秒を記録していませんが、ゼロ秒として <TIME_ON:!Af>!TH!TM00 とすれば 6 文字で <TIME_ON:6>220500 と出力できます。

<BAND:!Af>!Bt

交信したバンド (波長) です。7MHz 帯だった場合は、<BAND:3>40m となります。

!\$D

モードがコピーされています。16 行目で <MODE:!Af>!MD という文字列がコピーされていますので、FT8 だった場合は、<MODE:3>FT8 となります。

D-STAR だった場合は、22 行目で <MODE:12>DIGITALVOICE<SUBMODE:5>DSTAR という文字列がコピーされていますので、これがそのまま置き換わります。

<MY_SIG:4>POTA

このフィールドは POTA とする必要があります。

<MY_SIG_INFO:!Af>!\$B

アクティベーターとして運用した POTA 番号を指定します。図 2 (p.169) の例では 11 行目で \$\$B に JP-9999 がコピーされていますので、<MY_SIG_INFO:7>JP-9999 となります。

<EOR>

1 件のデータの終わりを示します。End-Of-Record の略のようです。これにより、1 件の QSO データを 2 行以上に改行して出力することができます。

28行目

? End

? Data13 の終わりを示します。

ADIFファイルの出力結果

図3は出力結果で、筆者がJP-1325で移動運用したときのADIFファイルです。これをPOTAのサイトにアップロードします。

ADIFファイルに出力したら、念のためエディタ等で内容を確認してください。

POTAのサイトでは、アップロードするときに国立公園などで複数の県にまたがる場合は、県の選択を促す画面が出てきます。

コメント欄を利用する

図1(p.169)のコメント欄には「今後ともよろしくお願いします。」と一般的なことを書いていますが、ここにPOTAの公園番号を入れて利用することができます。

図2(p.169)の11行目では#Mov \$B="JP-9999"となっていますが、ここを#Mov \$B="!Co"に変えます。

図4は、コメント欄にPOTA番号を記載した状況

です。

これにより、POTA移動運用のたびに図2の11行目を書き換えなくても、コメント欄のPOTA番号を書き換えるだけでADIFファイルに出力することができます。

#AdifJ命令について

QSL印刷機能を利用したADIF出力には、前述までのほかに#AdifJ命令があります。

#AdifJ命令では、JARL会員データ(JARL.mDAT)によるQSL印刷抑制機能を用い、JARL非会員などと交信したADIFデータは出力しません。

また、ノーQSLなど印刷除外のQSOデータも出力しませんし、JARL指定順やJARL指定逆順などで出力することができます。

これは、他のQSLカード印刷アプリ用にADIFファイルを出力することを想定しています。

QSLカード印刷ウィンドウでは、以上のようにカスタマイズ可能なADIFファイル出力機能を用意していますので、ご活用ください。

それでは、次号に続きます。

◎◎

```
1 ADIF Export from Turbo HAMLOG/Win Ver5.47a (c)JG1MOU↓
2 <PROGRAMID:16>Turbo HAMLOG/Win↓
3 <EOH>↓
4 <STATION_CALLSIGN:8>JG1MOU/P<OPERATOR:6>JG1MOU<CALL:6>JA4JVE<QSO_DATE:8>20250705↓
5 <TIME_ON:4>0111<BAND:3>40m<MODE:3>FT8<MY_SIG:4>POTA<MY_SIG_INFO:7>JP-1325<EOR>↓
6 <STATION_CALLSIGN:8>JG1MOU/P<OPERATOR:6>JG1MOU<CALL:6>JG1NDM<QSO_DATE:8>20250705↓
7 <TIME_ON:4>0112<BAND:3>40m<MODE:3>FT8<MY_SIG:4>POTA<MY_SIG_INFO:7>JP-1325<EOR>↓
8 <STATION_CALLSIGN:8>JG1MOU/P<OPERATOR:6>JG1MOU<CALL:6>J13ERY<QSO_DATE:8>20250705↓
9 <TIME_ON:4>0114<BAND:3>40m<MODE:3>FT8<MY_SIG:4>POTA<MY_SIG_INFO:7>JP-1325<EOR>↓
10 <STATION_CALLSIGN:8>JG1MOU/P<OPERATOR:6>JG1MOU<CALL:6>7K3QPL<QSO_DATE:8>20250705↓
11 <TIME_ON:4>0115<BAND:3>40m<MODE:3>FT8<MY_SIG:4>POTA<MY_SIG_INFO:7>JP-1325<EOR>↓
12 <STATION_CALLSIGN:8>JG1MOU/P<OPERATOR:6>JG1MOU<CALL:6>JW1QUJ<QSO_DATE:8>20250705↓
13 <TIME_ON:4>0116<BAND:3>40m<MODE:3>FT8<MY_SIG:4>POTA<MY_SIG_INFO:7>JP-1325<EOR>↓
14 <STATION_CALLSIGN:8>JG1MOU/P<OPERATOR:6>JG1MOU<CALL:6>JL2OBL<QSO_DATE:8>20250705↓
15 <TIME_ON:4>0117<BAND:3>40m<MODE:3>FT8<MY_SIG:4>POTA<MY_SIG_INFO:7>JP-1325<EOR>↓
16 <STATION_CALLSIGN:8>JG1MOU/P<OPERATOR:6>JG1MOU<CALL:6>JRONEA<QSO_DATE:8>20250705↓
17 <TIME_ON:4>0118<BAND:3>40m<MODE:3>FT8<MY_SIG:4>POTA<MY_SIG_INFO:7>JP-1325<EOR>↓
18 <STATION_CALLSIGN:8>JG1MOU/P<OPERATOR:6>JG1MOU<CALL:6>JH4MGU<QSO_DATE:8>20250705↓
19 <TIME_ON:4>0119<BAND:3>40m<MODE:3>FT8<MY_SIG:4>POTA<MY_SIG_INFO:7>JP-1325<EOR>↓
20 <STATION_CALLSIGN:8>JG1MOU/P<OPERATOR:6>JG1MOU<CALL:6>JE1LGW<QSO_DATE:8>20250705↓
21 <TIME_ON:4>0120<BAND:3>40m<MODE:3>FT8<MY_SIG:4>POTA<MY_SIG_INFO:7>JP-1325<EOR>↓
```

図3 7MHzのPOTA移動運用をADIFファイルに出力した結果

QSLカード印刷

☐ JARL指定順
☒ JARL指定逆順
☐ 入力順
☐ 入力逆順

☐ Rig/Ant確認あり
☒ 未発行局を印刷
☐ 未受領局を印刷
☐ 受領局を印刷

印刷除外QSL
 印字位置補正 x, y

☐ 除外検索
 レコード番号(R) から

検索なし
 定義ファイル(F)

コメント(C)

☐ 試し印刷でもQSL発送マークする
☐ QSL発行マーク済みでも印刷→
☐ Rig/Antの周波数無視
 印刷データの小分け枚数

☒ 連続印刷
☒ 選択して印刷
 DXも国内も

☒ JARL.mDAT 2025/07/07版を使う
☐ JARL.mDAT最新版の確認

編集(E)
 イメージ
 Rig/Ant
 開始(G)
 次へ(N)
 前へ(B)
 プリント設定
 閉じる

図4 コメント欄にPOTA番号を入れた状況

Column

ADIF (Amateur Data Interchange Format) とは、アマチュア無線局が交信記録を管理・交換するためのファイル形式で、eQSL や LoTW などでも利用されています。

HAMLOG では 2011 年 7 月頃、複合条件検索に ADIF ファイルの出力機能を追加しました。eQSL にアップロードするとき、この機能を使っている方が多いと思います。

これとは別に、2019 年 1 月頃には QSL カード印刷の定義ファイルを使って ADIF ファイルを出力する機能を追加しました。

この当時、筆者は JARL の電子 QSL 委員会の委員であり、同委員会で決めた仕様として ADIF ファイルをアップロードして電子 QSL を生成するシステムとして検討していました。そのため、どのような ADIF フィールドに決定しても対応できるようにと、QSL 印刷の定義ファイルを使って ADIF ファイルをカスタマイズできるように作ってみたものです。

結局、この電子 QSL 案はボツになってしまいましたので、「じゃ、俺が簡単な電子 QSL でもやってみようかな!」と思いついて作ったのが HAMLOG E-Mail QSL (通称 hQSL) であります、hi。

現在、筆者は QSL 問題対策委員会の委員として、再び JARL の電子 QSL について検討しています。

話を戻し、QSL 印刷定義ファイルを使った ADIF ファイル出力機能については、しばらく筆者自身もその存在を忘れていたのですが、本誌 2023 年 1 月号で JK2XXK 戸根 OM によりご紹介をいただき (TNX!), 筆者が POTA 運用をするようになって活用し始めたものです。

ちょっとややこしい内容ですが、カットアンドトライで工夫し、ご活用いただければ幸いです。